

# チャレンジ支援委員会「おせっかい侍の発表応募支援 STEP2」 報告書

チャレンジ支援委員：高橋、香月、末松

2025年6月29日 10:00-12:00 オンライン開催

---

## 「『交流ひろば』出展申請書作成ワークショップ」

2025年度「おせっかい侍の発表応募支援 STEP2:『交流ひろば』出展申請書作成ワークショップ(オンライン)」では、「交流ひろば」への出展を検討している皆さんを対象に、ワークシートや参加者同士の対話を通してアイデアを言語化し、申請書を作成する初めての試みを実施しました。本企画は、STEP1「交流ひろばのタネ探し」に続く支援イベントです。当日は、所属や関心が異なる4名の方々にご参加いただきました。

第1部「出展者の体験談を聞こう」では、吉川達氏(立命館大学)にご登壇いただきました。吉川氏は多読の研究や教材開発に取り組んでおり、多読テキストづくりの仲間を集めたいという強い思いから、秋季大会や複数の支部集会で「交流ひろば」に出展された経験があります。出展申込書には「出展概要(約800字)」と「Web掲載紹介文(約150字)」の記載が求められますが、実際の記入例を示しながら、書き方のポイントや、「出展概要→紹介文→題目」と大から小へ順に書いていくとまとめやすいといった工夫などについて、丁寧にお話しいただきました。参加者からは、「交流ひろばと通常の学会発表の違いは?」「参加者から得た意見を実践や研究に活かす際の留意点は?」といった率直な質問が寄せられました。

第2部「ワークショップ:出展申請書を書いてみよう」では、「教育実践の紹介・共有」と「研究の紹介・共有」の出展の目的別にブレイクアウトルームに分かれ、ワークシートを活用しながらアイデアの言語化や文書作成に取り組みました。まず、個人作業でアイデアを想起・言語化し、次に、ワークシートを画面共有して読み上げながらピアレビューを行いました。各グループにはチャレンジ支援委員がファシリテーターとして参加し、文章の焦点の絞り方など、読み手に伝わりやすくするための深い対話が行われました。中には「この企画が交流ひろばに出展されたら、ぜひ同僚を連れて聞きに行きたい」といったコメントも聞かれました。最後に、作成したWeb掲載紹介文を全体で共有し、ワークショップを締めくくりました。閉会后には交流用のブレイクアウトルームも設けられ、参加者同士でさらに情報交換や対話を深めていただきました。

事後アンケートには全員が回答してくださり、全員から「満足できた」「役に立った」との回答をいただきました。記述コメントからは、「説明を聞くだけでなく、実際に書くことや、質問を通して考えるプロセスを体験できた」「漠然としていた考えが具体化された」といった声が寄せられ、他者との対話を通じて申請書作成への自信を深めた様子がうかがえました。

本企画は、参加者がアイデアを持ち寄り、その場で申請書のたたき台を作成するという、チャレンジ支援委員会として初めての取り組み（まさにチャレンジ）でしたが、登壇者・参加者・ファシリテーターの相互作用によって、創造的な学びの場が築かれたように感じます。本企画が参加者にとって次のステップとなり、「交流ひろば」への出展のきっかけとなれば幸いです。登壇者およびご参加くださった皆様に、心より御礼申し上げます。

